

「またあなたとともに」

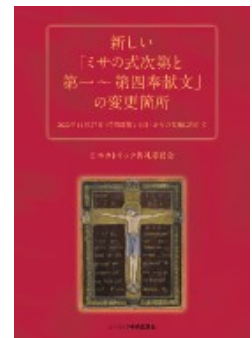
司祭 和野信彦



全世界のカトリック教会はすでに「ローマ・ミサ典礼書第3版」を用いてミサを行っております。日本の教会は規範版第2版(ラテン語)の日本語版を1978年に発行し現在に至っています。しかし、これは規範版の全訳ではなかったため「暫定版」でした。そのため、2000年に全訳への改訂作業が決定しましたが、2002年にローマ・ミサ典礼書規範版第3版が発行されたため規範版第3版への改訂作業へと移行しました。

日本語版改訂作業を進めていく中で日本司教団は教皇庁の典礼秘跡省と意見交換や再提出などを重ねながら時間をかけてきました。そして、2021年5月典礼秘跡省は「ミサの式次第と第一～第四奉献文」、「ミサの結びの祝福と会衆のための祈り」、「水の祝福と灌水」の式文を公式に認証しました。ですが「公式祈願文」、「叙唱」、「入祭唱」、「拝領唱」などの改訂作業はこれから進められていくことになるので、現行のものを用いることとなります。また、歌唱ミサのための旋律もこれから発行されていくことになります。この「新しい式次第と奉献文」を用いてのミサは待降節第一主日(2022年11月27日)より開始されます。

さて、やっと全世界のカトリック教会と同じく規範版第3版でのミサを行うことができるようになるわけです。すべてが完成しているわけではありませんが、「新しい式次第」の変更点は中央協議会ウェブサイトからダウンロードできますし、秋頃には司祭用・会衆用が出版される予定だそうです。



これまでの式次第との変更点についてここで列挙することはいたしません。代表的なのは「(司祭)主は皆さんとともに」「(会衆)またあなたとともに」という表現でしょうか。規範版では「またあなたの霊とともに」と「霊」という言葉が入っています。これを入れるか入れないかで典礼秘跡省とのやりとりがあったと聞きました。まあ、神学的な論争はさておきミサの文言は何を指し示して発せられているのかということに重きを置いているのだとあらためて思います。所作もそうです、一つ一つの所作は意味があり目的があるということを教えられます。そうした文言と所作が儀礼としての調和を保って行われるとき、真の意味でのミサ聖祭が実現していくことになるのでしょう。

もちろん、新しい式次第の変更箇所については、「以前のものをういてもよい」とある箇所もあります。新しい式文に違和感を覚える人も出てくるでしょう。でも、大切なことはローマ・ミサ典礼書規範版の文言(日本語版)に示されている意味をきちんと受け止めていくことです。好き嫌いではなく、カトリック教会のミサにおけることばは一致した信仰を表すものであることを第一にしなければなりません。今回、認証された式次第の文言を個人的に勝手に変更することは許されません。

そして、11月27日前に新しい式次第を行うことは教区長の特別許可が必要です。変更後に旧式次第を用いることも教区長の特別許可が必要となります。これからは新しい式次第の変更点についてともに学んでいく機会を地区として歩を合わせて設けていきたいと思っております。